



中期経営計画（2025年度～2027年度）

埼玉高速鉄道株式会社

2025年3月

はじめに



当社は、2001年3月に開業し、まもなく25周年を迎えます。
これまでを振り返ると、開業当初から厳しい経営状況が続いた「創業期」、2015年に事業再生ADRが成立し、以後経営は堅調に推移し、新型コロナウイルス感染症の影響により利用者が大きく減少したものの、9期連続の黒字を確保した「経営再生期」と位置づけられます。

2024年度は輸送人員・輸送収入ともにコロナ禍前を上回る見込みとなり、これからは「経営成長・発展期」と位置付け、足元を見つめ直し、進化し発展してまいります。

本中期経営計画では、2027年度までとなっている事業再生ADR期間を着実に完結させるとともに、当社の成長に向けた礎づくりを進めます。経営環境の変化に的確に対処しながら、事業を成長・発展させる所存です。

皆様の変わらぬご支援をお願い申し上げます。

2025年3月

代表取締役社長 平野 邦彦

創業期

1992(H4).3 創業
2001(H13).3 開業



経営再生期

2015(H27).1 事業再生ADR成立
2015年度より、9期連続営業黒字



経営成長・発展期



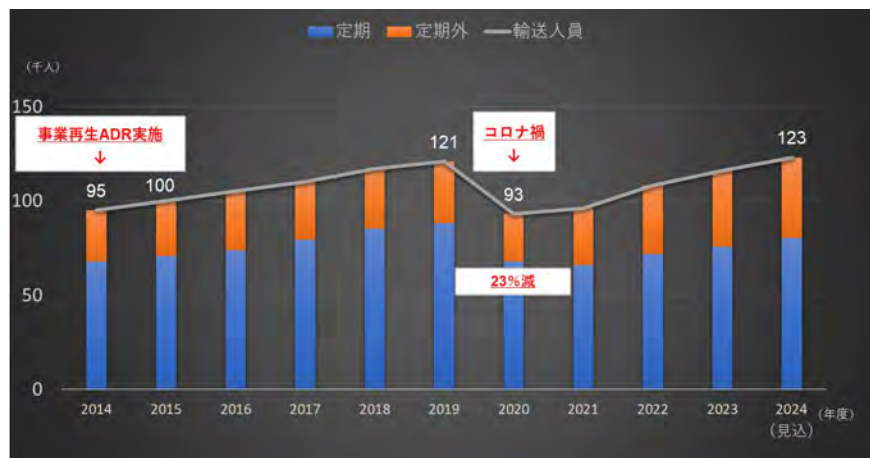
1	経営の現況	4
2	経営理念と経営方針	5
3	経営指標	6
4	経営目標	7
5	主な取組	8
	1 安全・安定・安心輸送の確保	8
	2 お客様サービス（快適性）の向上	14
	3 経営基盤の強化	18
	4 沿線地域との共創	25
	5 岩槻延伸の事業化に向けた取組	29

経営の現況



- コロナ禍の影響により、2020年度は、2019年度比で輸送人員が23%減、営業利益が52%減、経常利益が55%減となりましたが、2024年度は輸送人員がコロナ禍前を上回る見込みとなり、営業利益・経常利益ともに黒字を見込むなど、堅調に推移しています。
- 事業再生ADR実施以前の欠損金の繰越控除期間（9年）が終了し、2024年度から法人税負担が生じるなど、新たな局面を迎えています。
- 開業から25年が経過するため、今後、鉄道施設・設備の更新や維持修繕が増加するとともに、車両の大規模修繕等への対応が必要となります。
- 今後の岩槻延伸の事業化に向け、埼玉県、さいたま市と連携し進めています。

【一日当たり輸送人員の推移】



【経営状況の推移】



2. 経営理念と経営方針



経営理念 「選択される鉄道」

私たちは、安全・安心で価値あるサービスを笑顔で提供し、
地域の皆さまに「選ばれる鉄道」を目指します。

【経営方針】

お客様にとって

お客様の立場に
立ち、「安全」
「安定」「安
心」「快適」な
輸送サービス
をお届けします。

地域にとって

地域社会と連携
し、地域の発展
に貢献します。

株主にとって

健全な経営と経
営基盤の強化に
努めます。

社員にとって

社員のやりがい
を高め、活力あ
る企業風土をつ
くります。

社会にとって

法令および社会
規範を遵守し、
誠実かつ公正で
あり続けます。

経営指標（2027年度目標）



- 1 鉄道運転事故ゼロの継続
- 2 営業収益109億円
- 3 営業利益30億円、経常利益28億円

（単位：億円）

	2025年度	2026年度	2027年度
営業収益	105.7	107.3	109.0
営業利益	29.7	30.0	30.2
経常利益	28.2	28.5	28.7

（参考）

輸送人員（千人/日）	125.1	127.3	129.4
設備投資	37.3		
有利子負債残高	366.1	350.5	335.2



1 安全・安定・安心輸送の確保

2 お客様サービス（快適性）の向上

3 経営基盤の強化

4 沿線地域との共創

5 岩槻延伸の事業化に向けた取組

1 安全・安定・安心輸送の確保

鉄道事業者の使命である安全・安定・安心輸送を確固たるものとするため、鉄道施設・設備等の計画的な維持修繕・更新を進めるとともに、駅構内・車内のセキュリティ向上や激甚化・頻発化する自然災害への対策強化などに取り組みます。

【取組項目】

- 1 安全推進の継続的な改善・強化
- 2 鉄道施設・設備や車両の安全性の維持向上
- 3 駅構内・車内のセキュリティ向上
- 4 災害対策の強化
- 5 感染症対策の推進



浦和美園駅・埼玉高速鉄道2000系車両

1 安全・安定・安心輸送の確保

1 安全推進の継続的な改善・強化

➡ 運輸安全マネジメント制度に基づく安全推進の継続的な改善・強化に取り組めます。

- ➡ 輸送の安全に関する最新の情報を広く収集して共有を図り、当社としての対策等を速やかに検討・協議し、改善・強化につなげます。
- ➡ ヒヤリ・ハット活動の推進や役員による職場巡視などにより、社員の安全意識や知識の向上を図ります。

➡ 事故・災害等発生時に社員が的確に対応できるよう、様々な状況を想定した各種訓練を実施するとともに、対策本部と発生現場間で迅速に情報共有し早期対応を図ります。

- ➡ 異常時シミュレーション訓練等を定期的に行うとともに、警察や消防と連携した合同訓練や情報交換会を適宜実施していきます。
- ➡ 対策本部において発生現場状況の把握を迅速・的確に行うことができるよう、デジタル機器等を活用し、早期の救護や復旧を図ります。



トンネル内歩行訓練

1 安全・安定・安心輸送の確保

2 鉄道施設・設備や車両の安全性の維持向上

➔ 開業から25年が経過するため、鉄道施設・設備や車両の計画的な維持修繕・更新を進めます。

- ➔ 鉄道施設・設備や車両の定期検査を引き続き適切に実施するとともに、電力管理装置、駅放送装置、保守用車両や車両全体の大規模改修等における更新計画を策定し、着実に推進します。
- ➔ 最新の保安技術の情報収集や社員の技術力向上に努め、CBM*等の活用によりメンテナンス作業の省力化や事故の未然防止に取り組みます。

*CBM（Condition Based Maintenance）
線路等の状態を監視し、状態に応じて
メンテナンスを行う保全方法



車両の検査

1 安全・安定・安心輸送の確保

3 駅構内・車内のセキュリティ向上

➔ 過去に発生した列車内傷害事件等を踏まえ、駅構内・車内のセキュリティ向上を図ります。

- ➔ 不審者・不審物やテロ等への対策を強化するため、駅監視カメラを順次更新し視認性を高めるとともに、鉄道係員・警備員等が駅構内・車内を巡回し事件等を抑止していきます。
- ➔ 各駅にロック式刺股・防護盾・防刃手袋を配備するとともに、鉄道警察隊と連携し、お客様を犯罪から守る取組を進めます。
- ➔ 国土交通省の定めるガイドラインに基づき、適宜新たな対策を講じていきます。



刺股・防護盾を使用した訓練

1 安全・安定・安心輸送の確保

4 災害対策の強化

➔ 激甚化・頻発化する台風・集中豪雨など水害による浸水リスクの高まりを受けて、沿線自治体のハザードマップ等に基づき、地下鉄構内への浸水防止対策を強化します。

- ➡ 駅出入口への止水板設置のほか、換気塔への浸水対策を進めます。
- ➡ 発災時の迅速な対応に向け、浸水対策マニュアルを整備し、定期的に訓練を実施します。

➔ 事故・災害発生時における被害を最小化するため、危機管理体制を強化します。

- ➡ 対策本部において発生現場状況の把握を迅速・的確に行うことができるよう、デジタル機器等を活用し、早期の救護や復旧を図ります。【再掲】



止水板設置



対策本部

1 安全・安定・安心輸送の確保

5 感染症対策の推進

- ➔ お客様に安心してご利用いただくために、新型インフルエンザ等の感染症の流行時に備えた体制を確保します。
 - ➡ 流行の状況に応じて、抗菌・抗ウイルス対策を実施します。
 - ➡ 乗務員の欠勤等の緊急事態に備えた運行ダイヤを準備し、運行体制を確保します。
- ➔ 職場等の感染リスクを最小限に抑えられるよう就業環境の整備等により、社員の健康と安全確保に努め、安定した鉄道運行を確保します。
 - ➡ 社員への予防接種の実施や職場への加湿器・手指消毒液等の設置など、感染症対策を継続的に推進します。



抗菌・抗ウイルス対策

2 お客様サービス（快適性）の向上

多様化するニーズを捉え、お客様が安心して快適にご利用いただける快適な空間を提供するため、ハード・ソフト両面から取組を推進するとともに、鉄道・バスの乗換案内の充実などに取り組みます。

【取組項目】

- 1 駅施設・車両の利便性・快適性の向上
- 2 快適なサービスの提供
- 3 乗車・乗換等サービスの向上



サービス介助士資格のある駅係員

2 お客様サービス（快適性）の向上

1 駅施設・車両の利便性・快適性の向上

➔ 駅施設の利便性・快適性の向上を図り、お客様に快適な移動空間を提供します。

- ➔ 駅の運賃表・出入口案内のデジタルサイネージの設置を拡充し、適時性・視認性を高めます。
- ➔ お客様のニーズを踏まえ、店舗の誘致などさらなる利便性の向上を図ります。
- ➔ 経年劣化したバリアフリー設備等の維持修繕・更新を着実に進めます。

➔ 今後の混雑率の見通し等に応じた、車両の導入計画を進めます。

- ➔ 今後の需要動向や直通運転各社の状況等を踏まえ、8両編成車両等の導入計画を進めます。



デジタルサイネージ（駅運賃表）



駅構内への店舗誘致

2 お客様サービス（快適性）の向上

2 快適なサービスの提供

- ➔ お客様のニーズを捉え快適にご利用いただくため、接遇サービスの向上を図ります。
 - ➔ 全駅係員にサービス介助士資格の取得を推進します。
 - ➔ お客様の声を踏まえ、駅係員の接遇研修やOJTを実施します。
- ➔ お客様に安心して気持ちよくご利用いただける駅空間を提供します。
 - ➔ 「駅から始まる子育て支援」の取組の充実を図ります。
 - ➔ ポスターや駅構内の案内等を通じて、マナー啓発を進めます。
 - ➔ シンプルで清潔感のある夏服にリニューアルし、お客様を「おもてなし」いたします。
 - ➔ 開業25周年を迎え、お客様への感謝を込めた記念事業「サンクス25」を実施します。
 - ➔ 駅係員と地域の方との手作りで、季節感と親しみのある駅を創出します。



設置型ベビーケアルーム
「mamaro™」

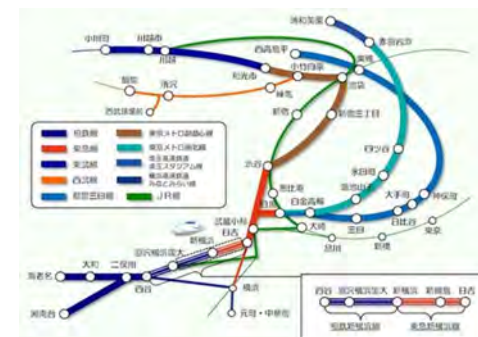


鳩ヶ谷駅
金魚ちょうちん装飾

2 お客様サービス（快適性）の向上

3 乗車・乗換等サービスの向上

- ➔ デジタル技術の進展を踏まえた新たな乗車サービスの検討を進めます。
 - ➔ 利用者の動向や他鉄道会社の導入状況等を踏まえ、クレジットカードによるタッチ決済やQRコード決済による乗車券サービスの検討を実施します。
- ➔ 他社線への乗継ぎやバス等への乗換案内、イベントやサービス案内等の充実を図ります。
 - ➔ 駅・列車情報、運賃、乗換や時刻表等の鉄道利用情報等について、ホームページを全面リニューアルし、お客様の利便性を高めていきます。
 - ➔ 他社線との直通運転（都内・神奈川方面）における利便性について、PRを強化します。
 - ➔ ホームページ等におけるバス路線への乗換案内情報等を充実させていきます。



広域鉄道ネットワーク



のりかえ便利マップ

3 経営基盤の強化

中長期的に安定した事業運営を実現するため、まちづくりへの参画による定住人口の拡大、イベント開催・企画乗車券の発売による交流人口の拡大や駅スペースの店舗利用等により安定的な収入を確保します。また、有利子負債の縮減による財務体質強化や人財の確保・育成による組織力の向上に取り組みます。

【取組項目】

- 1 営業収入の安定的な確保
- 2 組織・運営の改革
- 3 財務健全性の確保
- 4 人財の確保・育成
- 5 DXの推進
- 6 環境対策・省エネルギー化の推進



歩行者専用道路を活用した収入確保
(サッカー開催時)

3

経営基盤の強化

1

営業収入の安定的な確保

- ➔ 旅客運輸収入の確保に向けて、魅力ある企画乗車券の発売や各種イベントを通じて交流人口の拡大を図ります。
 - ➡ 外部との連携や自社で発案したユニークな企画乗車券を発売していきます。
 - ➡ 浦和美園まつり＆花火大会、車両基地見学会やイベント列車などを企画していきます。
- ➔ 関連事業収入の確保に向けて、限りあるスペースを最大限に活用していきます。
 - ➡ 浦和美園駅等の空きスペースに店舗を誘致するなど、駅ナカ等を拡充します。
 - ➡ 駅や車両を活用し、映画やテレビドラマ等の撮影を積極的に誘致します。



浦和美園まつり＆花火大会



映画・テレビドラマ撮影

3 経営基盤の強化

2 組織・運営の改革

- ➡ 新しいミッションへの対応と効率的運営体制を整えるため、本社組織と運営方法を見直します。
 - ➡ 会社の課題解決に向けた組織横断的なタスクフォースの取組を実践し、柔軟な組織運営を図ります。
 - ➡ 現場に発注権限を移譲し、発注業務の効率化に取り組みます。
 - ➡ 本社執務室環境の全面刷新を通して、コミュニケーションの活性化や業務の効率化を図ります。

3

経営基盤の強化

3

財務健全性の確保

- ➔ 創意工夫や費用対効果を意識しながら事業効率やコスト抑制を図ります。
 - ➔ 不断の事業見直しによる効率的な事業運営や他社と共同で調達するなど発注方法を見直します。
 - ➔ 他鉄道会社の取組や先行事例を参考に業務改善につなげていきます。
 - ➔ お客様のご利用状況に応じて、駅係員配置の最適化を図ります。
 - ➔ 有利子負債の計画的な返済を進めつつ、収益や金融情勢等の動向を踏まえ、利息負担を軽減するため、繰上返済を検討します。

3

経営基盤の強化

4

人財の確保・育成

➔ 社員のモチベーションの向上を図り、意欲的に働き続けられる環境を整備します。

- ➡ フレックスタイム制や在宅勤務を導入し、女性活躍やワークライフインテグレーションを進めます。
- ➡ 動画作成やインターンシップ開催など採用活動を強化し、新卒、社会人やシニアなど多様な人財を採用していきます。

➔ 当社の将来を支える人財を中長期的に育成するため、人財育成プログラムを整備します。

- ➡ 各種研修・教育訓練や資格取得支援を充実させ、社員のスキルレベルの向上を図ります。
- ➡ 技術や知識の向上を図るため、他鉄道会社との研修・出向等による交流を図ります。



教育訓練

3

経営基盤の強化

5

DXの推進

➡ デジタル技術を活用し業務の省力化・効率化を図ります。

- ➡ 最新の保安技術の情報収集や社員の技術力向上に努め、CBM等の活用によりメンテナンス作業の省力化や事故の未然防止に取り組めます。【再掲】
- ➡ 資料のデータベース化や効率化ツールの導入により、ペーパーレス化・業務効率化を図ります。
- ➡ 駅の運賃表・出入口案内のデジタルサイネージの設置を拡充し、適時性・視認性を高めます。【再掲】
- ➡ 駅窓口での案内に遠隔システムを導入し、お客様サービスを充実させます。
- ➡ AI技術を活用したお忘れ物の検索システムの導入を推進します。
- ➡ 社員・協力事業者向け研修について、オンデマンド化を推進します。

3

経営基盤の強化

6

環境対策・省エネルギー化の推進

→ 鉄道事業者として、環境負荷低減に取り組みます。

- 新造車両の購入計画において、環境負荷を低減した車両の導入を進めます。
- 車両走行時のデータを収集・分析し、列車の省エネ運行に向けた新たな取組を始めます。
- 鉄道施設・設備や車両の全面LED化を進めます。
- 自治体や地域団体と連携し、緑化活動に貢献します。



浦和美園駅屋上 太陽光発電

4

沿線地域との共創

沿線地域の持続的発展を目指し、都心から近い緑地空間、江戸の歴史文化が残る城下町や日光御成道、人形・植木・盆栽・野菜の産地など地域資源を活かし、沿線の方々と共に魅力と賑わいを創出します。

【取組項目】

- 1 沿線地域との連携強化
- 2 沿線地域の魅力発信
- 3 沿線まちづくりへの貢献



お寺と連携した盆栽ワークショップ
(川口市)

4 沿線地域との共創

1 沿線地域との連携強化

➔ 沿線の企業・団体等との連携強化を図り、イベントの開催や駅構内等への出店など、沿線地域の活性化を図っていきます。

- ➔ 浦和美園まつり＆花火大会や子供の日フェスタなど多数のイベントを、地域の方々のご意見やアイデアを活かしながら共に開催していきます。
- ➔ 駅空間を地域の方に活用いただき、地元野菜等の販売やキッチンカー出店、SRカルチャースクールによる多彩な講座開催など、地域の魅力を高めます。
- ➔ 鉄道教室の開催や小学校の学習体験プログラムへの協力により、未来を担う子どもの育成に貢献します。
- ➔ 沿線の大学や農業事業者、企業等と連携し、都内等から観光誘客を図ります。



学習体験プログラム



SRカルチャースクール



美園マ・マルシェ

4 沿線地域との共創

2 沿線地域の魅力発信

- ➔ 沿線地域へ行きたくなるようなきっかけを創出できるよう、沿線地域で行われる旬なイベント情報やおすすめのお出かけルートなど、地域情報の発信等に取り組みます。
 - ➡ 沿線地域の魅力を多くの方に訴求できるよう、ホームページの全面リニューアルや車両ビジョン・SNS等の効果的な活用により情報発信力を強化します。
 - ➡ 観光名所や飲食店など沿線地域の魅力を掲載した情報誌を作成します。
 - ➡ 都内・神奈川方面からの誘客を促進するため、見沼たんぼや岩槻、安行などでの体験型イベント、埼玉スタジアムの多様なイベントなどを各主催者と企画・発信していきます。



SR沿線マップ（ナナイロぷらす）



日本一（20km超）の
見沼たんぼの桜回廊

4 沿線地域との共創

3 沿線まちづくりへの貢献

- ➔ 沿線自治体や地域団体等が推進している沿線まちづくりに協力していきます。
- ➔ 「UDCMi（アーバンデザインセンターみその）」など地域団体と連携し、地域の魅力を活かしたまちづくりを支援していきます。
 - ➔ 沿線の中核施設である埼玉スタジアムや周辺の水辺空間等を活かした魅力向上について、自治体や運営団体等と連携し検討を進めていきます。
 - ➔ 駅へのアクセス改善に向け、駅近くの商業施設等を活用したパークアンドライド実証実験等の施策を実施するほか、自治体やバス事業者等と連携し取り組んでいきます。



南鳩ヶ谷フェス（駅前）



埼玉スタジアム公園

5 岩槻延伸の事業化に向けた取組

都心直結、品川・羽田への利便性も高まる地下鉄7号線の岩槻延伸の早期実現を目指し、沿線地域の活性化、埼玉スタジアムや都心へのアクセス向上とともに、地域と当社の持続的な成長・発展につなげていきます。

【取組項目】

- 1 事業化に向けた取組
- 2 延伸エリアの定住・交流人口の拡大に向けた取組



結節を目指す岩槻駅



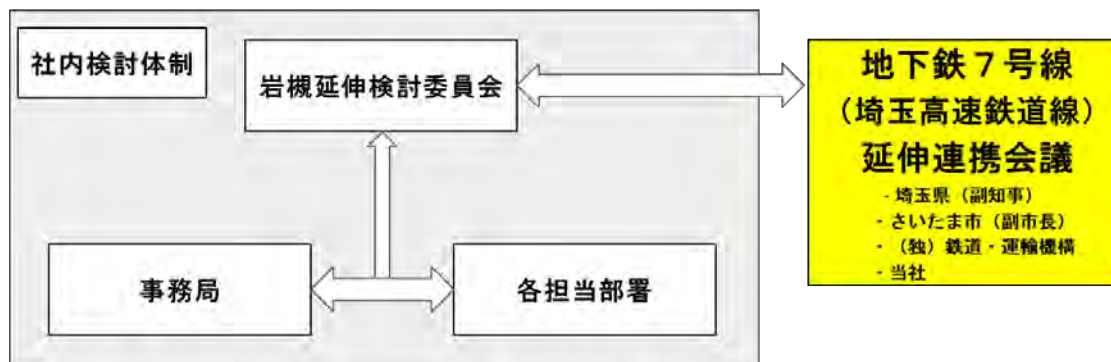
岩槻城址公園

5 岩槻延伸の事業化に向けた取組

1 事業化に向けた取組

- 関係自治体等との実務連携を図るとともに、社内に設置した岩槻延伸検討委員会で経営への影響を精査するなど、事業化に向けて着実に取り組んでいきます。
- ➡ 埼玉県、さいたま市と連携し、国の認定、延伸事業の実施を目指していきます。
 - ➡ 岩槻延伸の早期実現、延伸線の安全・快適なサービス実施に向けて、全社的に検討を進めます。

岩槻延伸検討委員会



5 岩槻延伸の事業化に向けた取組

2 延伸エリアの定住・交流人口の拡大に向けた取組

→ さいたま市や岩槻の市民団体等と協働し岩槻延伸の機運醸成を図るとともに、定住・交流人口の拡大に向けて協力していきます。

- ➡ 早期開業に向けて、地元関係者の機運醸成を図ります。
- ➡ 人形のまち岩槻の交流人口や関係人口が拡大するよう、市民団体や商店会等と連携し、観光資源の発掘や魅力の向上・発信を図ります。
- ➡ 東武鉄道等と連携し、乗り換えしやすい岩槻駅を検討します。
- ➡ 中間駅周辺の定住人口の早期増加を図るため、さいたま市等が進める魅力あるまちづくりに協力します。
- ➡ 埼玉スタジアム駅の利用客増加に向けて、埼玉スタジアム公園の多様な活用、集客力向上に協力します。



人形のまち 岩槻まつり



埼玉スタジアムでのお笑いイベント